

令和6年度 四万十市まち・ひと・しごと創生会議 議事概要

○日 時 令和7年3月27日（木） 14:00～16:15

○場 所 四万十市役所本庁舎3階 防災対策室

○出席者 委員14名のうち出席10名
推進本部員13名、事務局5名

○配布資料

会議次第

資料1：四万十市まち・ひと・しごと創生会議資料

資料2：四万十市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗管理シート

資料3：四万十市まち・ひと・しごと創生総合戦略 KPI 一覧

〈結果概要〉

1 開会

- ・新任委員紹介
- ・会議成立報告

2 前回会議の振り返り

- ・事務局説明
前回の創生会議で提出された主な意見等について説明

【質疑等】

特になし

3 議事

(1) 四万十市の人口及び産業状況等について

- ・事務局説明
資料1の1～4ページをもとに、四万十市の人口及び産業状況等について説明

【質疑等】

特になし

(2) 第2期総合戦略の進捗状況について

- ・基本目標1：事務局説明
資料1の5～7ページをもとに、第2期総合戦略の基本目標1に位置づける具体的事業の主な取り組みについて説明

【質疑等】

C 委 員： 農業分野で、ぶしゅかん等の生産量が落ちているようです。農業、畜産業で、特に力を入れていく具体的な取り組みがあればお聞かせ願います。

農林水産課： 資材高騰等に伴いまして、農業、畜産業を取り巻く環境は大変厳しいものになっております。そういった物価高騰対策について、令和6年度から国の臨時交付金を活用した支援策を講じております。来年度につきましても、国が同様の

交付金を打ち出しておりますので、交付金を活用した対策を講じる予定としております。

また、担い手不足といった課題もございますので、従事者の確保といった観点から力を注いでいきたいと考えております。

A 委員：各自治体が人口増に取り組んでいるわけですが、なかなか、うまく進まないのが現状ではないかなと思います。

そういった中で、関係人口ですね。例えば、地域おこし協力隊としてきていただいたけれども定住に至らなかった方であるとか、そういった方に四万十市をPRしていただく。そういったところに結びつけていければいいんじゃないかなと思います。

あともう1点先日バーベキューで世界2位に西土佐の方がなりましたけれども、そういった素晴らしいの成績を収められた方を、前面に出して、例えばその方がブレンドしたスパイスと一緒に肉を販売するとか、そういった方をうまく使いながら、付加価値をつけて売っていくと、ふるさと納税なんかももっと伸びていくんじゃないかなと思うので検討していただければと思います。

会 長：四万十海藻エコイノベーション事業について、やろうとしていることは、単に産業振興ではなく、若者がこのプロジェクトを魅力的に思って、地域で活躍できるようになるというところを目指していきたいと思っています。

総合戦略の中で、産業振興計画のプランがどうあるべきかという点があると思ってまして、例えば、このプロジェクト高校生が見て、どのプロジェクト将来やっていきたいと思うかという視点を考えていただければと思います。

つまり若者たちが地域に残りたいかどうか。地域に本当は残りたいんだけど、出ていかなきゃいけない状況をなくす。そういうことかなと思います。

それからもう1点、ぜひ四万十市から観光の若いスタープレーヤー創出に向けてご検討いただけないかなと思います。

それが観光分野の中で軸になるプロジェクトになっていくんじゃないかなと思いますので、ぜひ、議論を進めていただければと思います。

四万十海藻エコイノベーションのプロジェクトを使って、企業誘致ができればと思っていますので、県とも連携して進めていただければと思います。

・基本目標2：事務局説明

資料1の8ページをもとに、第2期総合戦略の基本目標2に位置づける具体的事業の主な取り組みについて説明

【質疑等】

F 委員：移住定住の促進について、広報とか周知の方法、SNSの活用とかされているんでしょうかホームページは確認したことがあります。他にどのような方法であれば教えていただきたいと思います。

企画広報課：移住施策、特に支援策での周知の方法ですけども、SNSの活用について、四万十

市活用できておりません。来年度からは SNS を活用した情報発信を強化したいと考えておりまして、インスタグラムを中心に Facebook 等を活用した情報発信を行いたいと考えております。

F 委 員 : 四万十市ではラインで情報発信をされていますが、例えば、四万十市を離れた方に既存のラインを使って、帰って来たくするような情報を発信するといったことをお考えいただければと思います。

企画広報課 : ラインは現在のところ、市民への情報伝達手段として活用しております。市外の方へには先ほど言いました他の SNS を活用した情報発信を一定さびわけをもって行っていきたいと考えております。

また、市外の方へ情報発信する一つ的手段として、関係人口やゆかりのある方、団体に協力していただくということも大変有効であると考えておりまして、昨年度から、ふるさと応援団への登録促進のところで土佐幡多の会っておりますけれども、そちらとの連携を強化する取り組みも始めております。幡多の高校生に卒業するまでにこういった団体がありますということも周知して、県外で就職することになった場合には、この団体に登録してください。地域おこし協力隊についても周知を行いまして、そういうところで四万十市と繋がる。そしてまた情報発信に繋げていくというようなことも考えています。

H 委 員 : 協力隊員なんですけれども、日高村や四万十町の方は応募者が多く、募集がでるのを待っている人がいるという話を聞きました。SNS、サイトの活用、PR の仕方次第で、四万十市にも絶対来るなと思いました。

B 委 員 : 奨学金返還支援制度について、前々から取り組んでいただきたいと思っていたことなので、具体的な対応について説明をお願いします。

企画広報課 : 制度設計の終盤で、まだ固まったわけではないですが、大学等で奨学金を貸与され、現在返済中の方で、四万十市に令和 7 年 4 月 1 日以降に転入された方。

また、現に就業している方を対象に支援していく。支援額ですけれども、毎月 1 万円を上限に、今のところ、最長 5 年を考えております。今、検討しているのは、現に就業していることと言いましたけれども、就業の範囲について、他市の事例を参考に検討しているところです。

B 委 員 : 現在働いている方ということで、これから戻ってこられる方は対象にならないという考え方なのでしょうか。

企画広報課 : 帰ってきて就業される方も対象となります。

B 委 員 : 四万十市内で働ける人でも戻ってくるきっかけがないっていうところが現状だと思うんです。この取り組みがきっかけになると思いますし、こういうものが具体的にあれば、伝えることもできると思います。この取り組みをしっかりと形にしていいただければ、非常にいいことかなと思います。

E 委 員 : この奨学金返還支援の取り組みというのはもう高知県内でも始まっているものと認識しています。この奨学金の補助のところですね、各企業の方も、サポートする企業というのが増えてると思います。ですから高知県の中でも、四万十市がこういうメリットがあるというのを発信していただければと思います。

C 委 員 : 地域おこし協力隊で、26 人が退任されたうち、半分の 13 人が定住されていることはすごいことかなと思います。四万十市を好きになって、定住されたのかなと思うんですがそういった具体的な声とかあればその内容、定住した理由をお聞きしたい。

また、そういった人を生かして、どんどん口コミで、四万十市を全国的に PR していただけるんじゃないかなと思いました。

もう 1 点、特定地域づくり事業協同組合の今後の展開を教えてください。

企画広報課 : 定住の理由ですが、把握しているところでは、もともと四万十市に住みたかった方が移住のきっかけとして協力隊の募集要項見て、移住された方もおられますし、実際、四万十市にきて好きになったという方も聞いております。細かい数は把握していませんが、そういった声を聞いております。

地域企画課 : いなかパイプさんのお力を借りながら、今年度中に設立したかったですけれども、4～5回のワークショップで、そこまではいったってなく年度が明けて 4 事業者の発起人がきまり、4 事業者がそのまま役員にスライドしてもらうというようなことを考えてます。それで、年度が明けて細かい詰めをしていき、県等の協力も得ながら、なるべく早い時期に設立をしたいというふうに思っております。この特定地域づくり、県内では馬路村、東洋町、この間安田町が立ち上がったそうなんですけれども、4 か所目 5 か所目ぐらいかなというふうに思っております。特に、過疎地域である西土佐地域にマルチワーカーを首都圏から呼んできて、いろいろな業種を体験していただくというようなことを目論んでおります。そういったノウハウをお持ちのいなかパイプさんにお力を借りながら、推進していきたいというふうに考えております。

D 委 員 : 他の市町村で、移住と一緒に介護人材不足を検討していこうというところがありました。お試し住宅体験費用の補助金とかっていうのを創設されると思うんですけど、子供さん一緒に連れてくるときに、その間保育を受けてもらうとか県内テレビなんかでやってたりするので、いろんなことを組み立てしながら、お試しというのもやっていってもいいんじゃないかなというふうに思いました。

企画広報課 : 短期滞在型のお試し住宅というものを考えておまして、保育認定というものは厳しいですけど、一時預かりという形で、子どもさんを預けていただくということは考えております。また、一時預かり料に対する補助金というものも、このお試し住宅の制度の中で検討していきたいと考えてます。

会 長 : 協力隊の定住理由がわからない。ここは明確に答えられるようになっていただ

きたい。とても大事なところだと思います。

それからイメージづくりですけども、施策があつて情報があるではやっぱり人は来なくて、イメージがあるから、人は来ると思います。そこを重要視していただければ、四万十市は、帰ってきたくなるまちだというイメージづくりをしっかりとしていただければと思います。近隣の市町村に比べて、近隣市町村出身の方も四万十市だったら帰ってもいいかなと思うんじゃないかなと思って、その辺は四万十市さんの強みかなと思います。

加えてインスタの話もありましたのでちょっとご紹介します。観光の専門家の方がこぞって言った言葉ですけども、インスタをプロにやらすのは最低限のことですよ。観光パンフレットを職員さんが手づくりで作りということまずありえないです。それと同等にインスタはプロに運用させるべきですよ。もっと言うと、インスタは最低限のことですよっていうことを言われてます。観光分野でのお話ではありますが、移住でもひょっとするとそういう可能性もある。ぜひご検討いただければ。

それから四万十エコイノベーションの方で、高校生が、どうして外にでていくのかとか、どうすれば地域に残りたいか、それからどれぐらいの数が実際動いてるっていうことを、ぜひ調べていきたいと思っています。

・基本目標3：事務局説明

資料1の9ページをもとに、第2期総合戦略の基本目標3に位置づける具体的事業の主な取り組みについて説明

【質疑等】

副 会 長： 出会いのきっかけのところで、西土佐地域のオレンジハウスが以前は若者の出会いの場みたいになっていたが、大分老朽化している。ここを改修するか何か違う形で、人が集まるようなものにできたら、また、若者が集まるのではないかと思います。

あと、子育ての方で中村地域の小児科が、この春から一つしかなくなり、けんみん病院に行くか、西土佐の人は愛媛県に行くかになってしまう。小児科がないところに移住したいかといったら、したくないと思うので、何かできたらなと思う。

健康推進課： この3月末で市内にあった2つの小児科のうち1つが閉院となります。それにあたりまして、民間で開業を考えていただいている医師の方がいます。市民病院の西棟を活用して、12月開業の予定で進めております。それに対して市が開業の助成を行うことで、準備を進めているところになっています。

事 務 局： オレンジハウスは、確か青年団が建てた青年団所有の建物だったと記憶しています。青年団の取組の中で交流もしましたし、県全域で交流する中で、当然結婚した方もいらっしゃる。そういう場として活用していくことは大変良いこと

だと思います。ただ、青年団所有となると、そこに行政が手を入れるというのは課題があるので、その課題をどう解決できるかというところが、一つハードルになってくるんじゃないかなと思います。

会 長 : 若者が集う場が必要ではというご意見だと思います。それは実際に物理的な場だけじゃなくて、今、デジタルの場なのかもしれないし、広く現状をご理解いただきながら、必要な施策を検討いただければと思います。

D 委 員 : 資料を見ておりまして、四万十市さんの方では今年度から産後ケア事業が、これまで訪問型だけだったのが、宿泊、通所型、事業拡充されておりますので、そういった実績を書かれてもいいのかなと思いました。

健康推進課 : これまでは直営で訪問型を取り組んでおりましたが、10月以降、市内の産婦人科の方で宿泊型をしてくださるというふうになりまして、産後ケアの宿泊型を実施するようにしております。まだ、宿泊型での実績ありませんが、実施にあたっての助成という形で、利用料の助成をしております。

・基本目標4：事務局説明

資料1の10ページをもとに、第2期総合戦略の基本目標4に位置づける具体的事業の主な取り組みについて説明

【質疑等】

G 委 員 : 今年度、予土線に乗ってもらおうということで、推進協議会がツアーを組みましたところ、99名、100人近い方が利用してくださいました。その中には、中村の方から大変多くの方が、予土線に乗ってみたいということで、こんな機会を作って欲しいということが言われました。50年ぶりに乗ったとか、そういう方がたくさんいました。やっぱりこういった機会を作るということは大事なことでなと感じました。その中で、沈下橋めぐりをしたらいいなと思いつつ、車に乗せていくという作業がちょっと難しいかなと思っていましたら、ある法律をクリアすれば、乗せていくことができるということを勉強しようという話にもなっています。やっぱり機会を作ることとか、地域の魅力の発信とかは大事なのかなと思ったことでした。

会 長 : 今まで白タク行為と言われていたものの基準がはっきりしてきたっていう、去年の春ぐらいに通達があって、例えば旅館の人たちが送迎できるっていう話もう明確になっておりますので、もうどこもそれやり始めて、ぜひその辺を工夫していただければと思います。

県の地域観光課にきけば、そのあたりしっかりされています。

・デジタル田園都市国家構想交付金を活用した取り組み：事務局説明

資料2の最終ページをもとに、デジタル田園都市国家構想交付金を活用した取り組みについて進

【質疑等】

副 会 長 : ホームページのアクセス数にちょっと関係するのかなと思って。四万十町はある程度ライブカメラで四万十川の様子がみれるけど、四万十市は四万十川の河口にはあるが西土佐や間の沈下橋にライブカメラがない。ライブカメラを設置することでホームページのアクセス数増加に繋がられないか。

H 委 員 : 昔、中半の四万十楽舎さんがライブカメラをやっていたと思う。もしまだやっているなら借りるとかしたらいいのではないかな。

黒尊川流域で、高齢者の方とかを対象にスマホ相談を行っている。その中で、市の公式ライン登録まで持っていきたいなって思っています。市の方でも公式ライン登録推進を、広報等でPRしてもらいたい。特に黒尊川流域は災害があると道も通行できなくなるので、情報を受け取るのに、高齢者でも利用しているラインを活用したらいいんじゃないのかなって思っています。黒潮町とか四万十町とかは、デジタル推進委員みたいなのを、民間の中で育てる講座をやっていて、そういった人たちが例えば健康福祉委員会で、教えるみたいな取り組みをされてるので、四万十市もやったらいいんじゃないのかなと思っています。

企画広報課 : ラインの件ですけれども、市もできるだけ多くの方に、友達申請していただきたいと考えておまして、今やってることは広報での定期的なPRです。セグメント配信、その設定の仕方も含めて定期的にやってるんですけども、説明させていただいたとおり伸び悩んでいます。これをどういった形でPRしたらいいのかはもう一度研究してみます。

それから、ライブカメラの件ですけど、目的が何かにもよると思います。観光目的なのか災害対応なのか各セクションで必要性等検討してみて、設置してしまえば観光PR、災害対応両方に活用できると思いますので、必要であれば費用対効果も含めて検討していきたいと思っています。

それから、デジタルデバйд対策ですけれども、現在デジタル推進計画を策定中でして、今年の夏頃に策定予定ですけど、その中にデバйд対策も位置付けてまして、具体的なアクションプランについては今後検討していきます。今ご提案いただいた健康福祉委員会ですとか、今の議論ででている難しいかもわかりませんが、例えば郵便局にご協力いただくとか、それらを含めて検討していきたいと考えてます。

地域企画課 : きずなパートナー、まずは数件ほどにタブレットを配付して、例えば午後3時になるとタブレットが自動的に起動しオペレーターの方といろんなお話をしながら、悩み相談、買い物支援なんかもしていきたいと思っています。まずはそういった取り組みを黒尊川流域で始めて、将来的には四万十市全域に広めたいと思っています。高齢者の方が、例えばスマホ、タブレットを、起動するとこ

ろからハードルが高いので、そうではなく、先進地に山口県の岩国市がありますが、午後3時になるとタブレット前で高齢者の方が待っていると、それが自動的に立ち上がって、オペレーターと話して日頃の悩みとか、買い物支援とか、そういったことの実証実験も、黒尊川流域で始めたいなというふうに思っております。

D 委 員 : クラウド型被災者支援システムの導入というところで、先ほど個別避難計画の作成もできるというような説明だったと思いますが、令和7年度の取り組みにはそういったことが書かれていない。今後何か検討されてることがあれば教えていただきたい。

地震防災課 : 現在のところ、個別避難計画までをシステムにはめることは考えていないんですけども、いろいろな精度を上げる中でこのシステムをどこまで活用するかというところはあるかと思います。そういった中で、システムにはめるかどうかについても考えていきたいとは思っているところです。地震防災課としましても、大きな災害が少なくなっているということで、初動が遅れたり、その後の対応が遅れたりすることも懸念されておりますので、そういったことも改めて精査したいと考えているところです。

会 長 : 高齢者について、高齢者とひとくくりにするんじゃなくて、どういう高齢者なのか、自分でみずから使える人なのか、なかなかそれが難しいとか、そのあたりも詰めた議論していただければと思います。

ライブカメラの話は、黒潮町と宿毛市で進めさせていただきましたが、情報担当課で取りまとめられるのが一番いいと思います。もちろん他課のニーズをまとめながら、情報を理解できる人がしっかりカメラのこと考えないと難しいところがあります。確実に人気は出ます。私は一番にできる自信を持てます。他の人にも一番にできると思いますし、それぐらいの人気コンテンツにできますし、実際に有用コンテンツにできます。デジ田交付金なんかでも、取り組みやすいとこだと思うので、ご検討されてはいかがかなと思います。

指標の中で10時間ですとかアクセス数ってありますけども、やっぱり単位をはっきりさせたほうがいい。ぜひ今後単位をはっきりさせていただければ、それによって大きく違うと思います。10時間っていうのは、1人当たり1日10時間削減するのか。それとも年間全職員で10時間削減するのか、圧倒的に違って、その辺の単位をはっきりしていただくことがいいと思います。

デジタル化に向けてですが、もっといろいろやっているんじゃないかなというところはあるんで、その辺もレビューされたらいいかな。正直ですね、出てきているものを見ると紙だったものを電子にするとか電子上で取り引きするというものなんですけど、これはもう10年ぐらい前の話なのかなっていう気がして、やはり今どこも取り組んでいくっていうのは、電子化、デジタルを使って、経営をどう変えていくかというところなんですよ。自治体さんの場合ですとEBPMです。EBPMも非常に難しいですが、実際データをあさりながら、何がそこ

からできるかっていうトライアンドエラーが重要になってくるので、ぜひ踏み込んだEBPMに値するようなところをぜひ今後、検討いただければと思います。

(3) 第2期総合戦略の改訂（案）について：事務局説明

資料1の11ページをもとに、第2期四万十市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂（案）について説明

【質疑等】

特になし

4 その他

【質疑等】

A 委員：最後にあった、イノベーションセンターですかね。四万十市の問題っていうのは、結局はプレイヤーの数が足りてないっていうところに起因していると思います。その中で、DXが進まないとか、いろんなことが前に進まないっていうのは、進めていけるだけの人材がやっぱり不足しているっていう、いろんな問題は人材不足に起因するんだと思ってます。そういう意味で、市として一番やって欲しいことは人材育成と思っています。いろんなところにお金を入れても人が育たないとそのあと続かないので、来年度やるこの事業でDX進めていく中で、個々の企業っていうのは、やっтерことが違うんで、その企業に合ったやり方に変えていくが必要になると思います。そういう意味では、そういったことができる人材が1人でも増える。先ほど会長からあったようにリール動画にしても、そういったことができる人材が1人でも増えれば四万十市の情報発信のすそ野が広がるということですね。この人材育成っていうところにぜひ力を入れていただきたいと思います。

会長：台湾で学んだことですが、日本の地方創生だと、人が減っていくから、よそから人取ってこうなんです。台湾ではそうじゃなくて、人が減ってくんだったら自分たちが強くなるっていうんですよ。つまりですね野球でいうとショートが抜けたら、サードとセカンドがショートのポジションをカバーできるようにしようと、そのために、足早くしようと、球筋を見極める力つけようと、これはやっぱり基本じゃないかなと私は改めて感じました。

そういう意味で、今おっしゃられた人材育成、一人一人がどのように力を尽けていくかということだと思います。

それが重要なんじゃないかなというふうに思いましたし、デジタル化のこともそうですけど、大変忙しくてしなきゃいけないことがいっぱいの中で人手不足。これから先、個人的には、とにかく前に進むということがとても大事であって、多少取りこぼしてたところで前に進んでいく。そういう、新たなケースっていうのがあっていいんじゃないかという気がします。

それから地方創生について、私個人は大変な危機感を持ってまして、10年それなりに自分も頑張ったつもりなんです。まあ、なかなか歯が立たなかった

という状況かなと思っていて、ここから先は少し違った地方創生の考え方もあるのかなと思っています。それは何かというと、我が子が四万十市で働いた方が我が子にとって幸せだと、それぞれの親が思える地域をつくれるかどうか。地方創生が始まった頃、みんなが必ず言ってたんですが、若者を地域に残さんといかんと、でも言ってる人の子はみんな外に出ていった。今もそういう状況は起きてて、やっぱりこれからの地方創生は、我が子は地域に残った方が我が子にとって幸せだろうと親が思えるかどうかだし、我が子が、俺、東京いくより四万十市に残った方がどう考えてもいいよね。そういう地域を作れるかっていうところかなと思っています。そういう意味でも、プランについてもぜひまた、尖ったプラン考えていただければと思いますのと、10年以上この戦略を持ってきてて、KPIについても若干時代にそぐわないところがでてきてるんじゃないかなと思います。皆さんの労力を軽くする上でも、見直されてすっきりされてもいいんじゃないかなと思いました。

例えばホームページのアクセス数って本当に必要ですか。SNSの方がいいんじゃないですか。今後、生成AIみんな使うようになってきてどんどんホームページ見なくなって、もう本当にそれが必要なのか、もう少し時代を見ながら、ダイナミックにKPIを考えられてもいいんじゃないかなというところでございます。最後に改めましてしまして四万十海藻エコイノベーションの方で、有識者からアドバイスをいただいたところでございますけども、枠をとっぱらうことを考えてくださいということを四万十市全体の宿題としていただいております。私は大学教授だから、これはできないこれをやらないって思わないようにと、例えば、一つの職場で働くものだなんていう枠を取っ払ったらどうですか。地域の方は、地域はこういうものだという先入観とその枠で、実際にもっとできるのに自分のパフォーマンスを下げているところがあるんだと思いますというような言葉をいただいております。我々はその枠をとっぱらえるようにですね、動いていきたいと思ってまして、一つの職業でじゃなくて、いろんなことをしながら、例えば年収1000万のサーファーがこの街にいる。そういうのをたくさん作っていけるかどうか。そういうことを考えていければと思います。

その他について：事務局説明

資料1の12ページをもとに、その他について説明

5 閉会 16:15